

令和5年度未来を創る学力向上支援事業に係る授業力向上協議会（中学校外国語）

【目的】各中学校及び義務教育学校後期課程の外国語科担当の教員等を対象に言語活動の充実に向けた授業改善や、学習指導要領の趣旨を踏まえた授業づくりに関する説明・講義等を行うことにより、外国語科教員の授業力向上に資する。

【期日】令和5年10月6日（金）13:30～16:25

【会場】別府国際コンベンションセンター（ビーコンプラザ） 中会議室

1 開会行事 挨拶

大分県教育庁義務教育課長 小野 勇一

○小学校と中学校の英語における接続が非常に重要である。

○小学校英語について、正しく理解し、域内の先生方と

その理解を共有していただきたい。



2 行政説明及び協議「大分県における外国語科の課題と授業改善」

＜説明＞大分県教育庁義務教育課主幹兼指導主事 田代 和馬

＜助言＞文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官

国立教育政策研究所 教育課程調査官 入之内 昌徳 氏

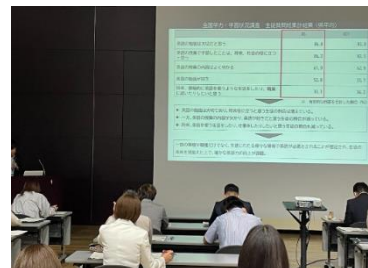
(1) 説明

○令和5年度全国学力・学習状況調査結果より

- ・前回の結果と比較して、全国平均を大幅に下回った。
- ・「英語学習」に対する愛好度が、前回よりも下がっている。
- ・「報告書」を基に、全国値と比較しながら学校の実態を把握してほしい。
- ・思考力・判断力・表現力の問題に難しさを感じる生徒が多い。

○課題に対する授業改善

- ・「文構造の誤り」「主語や動詞の脱落」が起きないように指導することが必要。
- ・教科書の例を参考にしながら、まとまりのある文章を書けるようにする指導が必要。
- ・教育庁チャンネルの動画などを参考にして、「概要を捉える」ことができるように指導する。



(2) グループ協議「『読むこと』の評価問題を考える」

1. 個人（15分）

- ①素材文の内容を確認
- ②問題作成の趣旨に沿って、問題と解答を作成
- ③解答類型を作成

2. グループ（25分）

- ①個人で作成した問題を紹介し合う
- ②問題作成の趣旨に沿っているかなど、意見交換
- ③いくつかの問題に関して、解答類型を作成

3. 参加者が実際に作成した問題例

- ・タイトルを選ぶ問題
- ・並び替えや正しい概要を選ぶ問題
- ・本文の概要を言いかえた英文の空所補充問題
- ・本文と似た内容のリーフレット（ポスター）を選ぶ問題



4. まとめ

- ・評価問題の作成にあたっては、問題データベースも参考になる。
- ・出題する前に、単元の中で概要を捉えるための指導を行うことが必要。

(3) 説明「小学校と中学校の学びをつなぐ外国語の指導」

- 中学校で指導する際には、小学校で何を学ぶのかを知っておくことが非常に大切。
- 特に、「書くこと」「読むこと」の指導方法、学習内容を理解する必要がある。

3 講義「指導と評価の一体化に向けた外国語科における授業改善」

＜講師＞文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官
国立教育政策研究所 教育課程調査官 入之内 昌徳 氏

- 外国語教育で大切にしたいと思っていることは何か。
 - ・（参加者）楽しい授業をして、そんな授業を通して生徒を指導をしたい。
 - ・授業は、英語を学ぶ場であると共に、英語を使う場である。
 - ・大切にしたいと思っていることを生徒と共有してほしい。
- 各種英語調査より
 - ・小学校と比較して、中学校での言語活動の割合が低くなっている。
 - ・小学校6年生の最後の単元の言語材料がどのようなものであるかを中学校の先生は知っておく。
 - ・小学校の時に、英語学習が好きだった児童が中学校で好きではなくなっている。
 - ・「話すこと」についてのアンケート結果に、生徒と教師とで大きなギャップがある。
- 「書くこと」大問10について
 - ・定期考査の問題作成時に、どの領域のどの目標に当たるかを考える必要がある。
この問題は「書くこと イ」に関連している。
 - ・「書くこと」が苦手な生徒への指導の工夫について、学習指導要領のP66を参考にしてほしい。
 - ・インプットは、アウトプットするためにするものである。
 - ・単元末だけではなく、単元を通して言語活動の時間を設定することが非常に重要である。
 - ・言語材料を事前に示しすぎてはならない。
- 「話すこと」大問2について
 - ・授業者が英語を話さないと、生徒はまとまった英文を聞き取ることはできない。
 - ・複数の領域を統合した言語活動を仕組みでほしい。
 - ・メモを活用して、英語を話す習慣をつけるような指導をしてほしい。
 - ・報告書には、授業アイデア例が入っているので、参考にしてほしい。
- 「話すこと」調査から見えた課題
 - ・基本的な文法事項などの必要な表現を身に付け、即興で伝え合うこと。
 - ・自分の考えや気持ちを理由などとともに話すこと。
 - ・聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたことを話すこと。
- 言語活動と関連付けて、言語材料について指導する必要がある。
- 生徒が興味をもって読みたいと感じるようなしかけを工夫することが大切である。
(例：英文に出てくる物を実際に見せるなど)
- ALTの先生方の活用について
 - ・英文のチェックばかりさせていないだろうか。一緒に英文を考えることはあるだろうか。
 - ・ALTの先生方が自分の同僚であるという感覚をもっているだろうか。
- 授業動画を公開した半田先生より
 - ・公開した授業で扱った難しい内容に対して、あきらめずにくらいついていく生徒を見て、以前よりも難しい活動を取り入れるようになった。
 - ・得意と感じる生徒はより難しい長文の捉え方ができるようになり、苦手と感じる生徒は読んだことを基にアウトプットすることを楽しむことができるようになった。

